



慶光会だより

6/8
①

平成30年6月吉日発行 第95号

目次

決算報告 P2~3
新任職員紹介・お礼 P8

事業報告・お知らせ P4~7



地域はたらくセンター開所

社会福祉法人 慶光会
鳥取県 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION
地域はたらくセンター開所式

平成30年5月16日、日本財団や鳥取県の協力により、障害者の工賃向上を実現するための共同作業場として「地域はたらくセンター」(ワークスくらよし内)を設立し、開所式を開催することとなりました。

当日は、日本財団チームリーダー・鳥取県知事・取引企業・各施設等を来賓に招き、60名を超える皆様に参加いただきました。式典では、鳥取県知事より心温まるお言葉、企業からは株式会社わんわんの副社長より今後の展開に係わる力強いお言葉、日本財団のチームリーダーより厳しいお言葉をいただき、「やるぞー」と身の引き締まる思いを強く感じました。

また、鳥取県の地へ事業展開をすることになったきっかけであり、現在のワークスくらよしの建物を寄付していただいた、株式会社徳洲会様へ感謝状と記念品の贈呈をしました。

式典の後には、「地域はたらくセンター」の見学を行い、参加された皆様に作業現場の様子をご覧いただき、今後の事業展開の説明をさせていただきました。

無事に事業を開始することができたのも、関係するすべての皆様のご支援あつてのことだと実感できる式典となりました。本当にありがとうございました。

木村 友哉
(蒜山慶光園)

香川県さぬき市出身で、職場の雰囲気にも惹かれて越してきました。大学では、主に地域福祉を勉強してきました。障害福祉の知識は薄いですが、精一杯やらせていただき、成長していけたらと思います。わからないこと・戸惑うことが多いですが1日、1日を大切に着実に歩いていきます。



入澤 毅
(蒜山慶光園)

支援員としてお世話になってます。学生時代、社会人になってからの12年間を島根で過ごして、この地域へ帰ってきました。まだまだ分からないことばかりで、先輩職員に迷惑ばかりかかっています。が、一生懸命頑張りますので宜しくお願いします。



鈴木 淳
(蒜山慶光園)

5月から勤務させて頂いています。未経験ですが、早く利用者の方のお力になれるよう、精一杯がんばります。よろしくお願いします。



新任職員紹介



勘藤 万椰
(グループハウスかわかみ)

利用者の方が日々の暮らしを「充実している」「楽しい」と感じていただけるよう、そのお手伝いができればと思っています。至らない点も多々ありますが、利用者の方一人ひとりと向き合い、先輩にご指導いただきながら頑張っていきたいです。



西田 留美
(ワークプレイスマにわ)

今までの環境との違いに戸惑いながらも職員の方や利用者の方に助けて頂いて作業に取り組んでいます。いろんな勉強をしながら、これからも利用者みなさんと一緒に作業をしていきたいと思えます。よろしくお願いします。




小林 真衣子
(真庭地域支援センター)

相談支援員として働いています。利用者の方やご家族、関係機関の方々、職員としっかり関わりながら、利用者さんが自己決定できるように相談業務を一生懸命頑張っていきたいと思えます。まだまだ未熟ですがどうぞ宜しくお願いします。



ありがとうございます

- ・青木怜子様
- ・古南恭子様
- ・仲田秀子様
- ・みかモストア様
- ・療育犬研究会岡山支部様
- ・黒住教ボランティア様
- ・ひだまり様
- ・蒜山ホースパーク様
- ・石部潤一様



平成29年度 事業報告

職員や世話人が意識的に利用者へ情報を伝えていかなければ、個人で情報を集めることが難しい方がいるということを認識することが大切だと考えます。そのためには、職員や世話人が情報収集をしておくことが必要となります。

また、今年度は健康診断の結果を受けて、肥満についての学習会を行いました。学習会では、自分のBMIの数値を照らし合わせながら肥満についての動画を見ることで、肥満へのより深い知識を得ることが出来ました。

今後一人ひとりと話し合いをしながらか、自分の将来像を意識して生活できるよう支援していきます。



グループハウス おちあい

利用者個々の「じりじり」「自立」「自律」を促すような言葉掛けをしてみました。必要な知識や経験不足によって目標の達成には至りませんでした。それぞれが自身に必要なることを理解して、自覚を持って生活することが必要と感じています。



真庭地域生活 支援センター

真庭地域生活支援センターは、地域に住まれている障害者やその家族からの相談に応じると共に、その方が希望される福祉サービスへの繋ぎやそれに伴う関係機関との連絡調整等を行いました。また、福祉サービスには繋がらなくても困っている、悩んでいるといった基本相談支援にも対応しました。そのような関わりの中で真庭地域自立支援協議会と連携しながら必要なニーズの汲み取りや、地域に住まれている障害のある方の状況把握に努めました。

昨年度は一年間で386人(うち障害児56人)に関わり、相談件数は51件に及びました。今年度も引き続き利用者に寄り添いながら相談支援を通して利用者に関わらせていただきたいと思います。

遊びに来てください

蒜山地区福祉運動会 日時 平成30年10月8日(月・祝) 9:30~12:00(予定) 場所 平成の森ドーム(真庭市蒜山) 主催 真庭市蒜山地区福祉運動会 実行委員会	デイセンターまつり 日時 平成30年9月23日(日・祝) 10:00~13:00 場所 デイセンターまにわ (真庭市下市瀬) 内容 ステージ企画・飲食出店 ・お菓子投げ等	地域ふれあいまつり 日時 平成30年8月25日(土) 16:00~19:00 場所 真庭市蒜山B&G海洋センター (真庭市蒜山) 内容 出店・ステージイベント
---	--	---

資金収支計算書

(自)平成29年4月1日~平成30年3月31日

(単位:円)

事業活動による収支	社会福祉事業	公益事業	合計	内部取引消去	法人合計
事業活動収入計	612,858,350	31,557	612,889,907	0	612,889,907
事業活動支出計	605,657,825	59,628	605,717,453	0	605,717,453
事業活動資金収支差額	7,200,525	△ 28,071	7,172,454	0	7,172,454
施設整備等による収支					
施設整備等収入計	36,658,720	0	36,658,720	0	36,658,720
施設整備等支出計	65,465,434	0	65,465,434	0	65,465,434
施設整備等資金収支差額	△ 28,806,714	0	△ 28,806,714	0	△ 28,806,714
その他の活動による収支					
その他の活動収入	31,326,672	0	31,326,672		31,326,672
その他の活動支出	7,577,183	0	7,577,183		7,577,183
その他の活動資金収支差額	23,749,489	0	23,749,489	0	23,749,489
当期資金収支差額合計	2,143,300	△ 28,071	2,115,229	0	2,115,229
前期末支払資金残高	237,411,845	1,827,957	239,239,802		239,239,802
当期末支払資金残高	239,555,145	1,799,886	241,355,031	0	241,355,031

事業活動収支計算書

(自)平成29年4月1日~平成30年3月31日

(単位:円)

サービス活動増減の部	社会福祉事業	公益事業	合計	内部取引消去	法人合計
サービス活動収益計	608,538,796	31,539	608,570,335	0	608,570,335
サービス活動費用計	635,798,454	59,628	635,858,082	0	635,858,082
サービス活動増減差額	△ 27,259,658	△ 28,089	△ 27,287,747	0	△ 27,287,747
サービス活動外増減の部					
サービス活動外収益計	4,319,554	18	4,319,572	0	4,319,572
サービス活動外費用計	878,020	0	878,020	0	878,020
サービス活動外増減差額	3,441,534	18	3,441,552	0	3,441,552
経常増減差額	△ 23,818,124	△ 28,071	△ 23,846,195	0	△ 23,846,195
特別増減の部					
特別収益計	173,893,007	0	173,893,007		173,893,007
特別費用計	173,877,228	0	173,877,228		173,877,228
特別増減差額	15,779	0	15,779	0	15,779
当期活動増減差額	△ 23,802,345	△ 28,071	△ 23,830,416	0	△ 23,830,416
繰越活動増減差額の部					
前期繰越活動増減差額	337,332,388	1,827,957	339,160,345	0	339,160,345
当期末繰越活動増減差額	313,530,043	1,799,886	315,329,929	0	315,329,929
基本金取崩額	0	0	0	0	0
その他の積立金取崩額	30,000,000	0	30,000,000	0	30,000,000
その他の積立金積立額	0	0	0	0	0
次期繰越活動収支差額	343,530,043	1,799,886	345,329,929	0	345,329,929

貸借対照表

平成30年3月31日現在

(単位:円)

資産の部		負債の部	
流動資産	393,936,696	流動負債	170,655,876
		固定負債	90,442,069
		負債の部合計	261,097,945
		純資産の部	
固定資産	821,755,633	基本金	306,594,636
		国庫補助金等特別積立金	302,669,819
		その他の積立金	0
		次期繰越活動収支差額	345,329,929
		純資産の部合計	954,594,384
資産の部合計	1,215,692,329	負債及び純資産の部合計	1,215,692,329

財産目録

平成30年3月31日現在

(単位:円)

資産の部		負債の部	
流動資産	393,936,696	流動負債	170,655,876
流動資産	391,087,599	流動負債	170,655,876
現金預金	139,048,338	事業未払金	143,044,470
事業未収金	235,839,593	1年以内返済予定設備資金借入金	7,284,000
未収金	10,905,884	預り金	2,037,273
商品・製品	2,115,435	職員預り金	3,480,133
原材料	1,904,354	賞与引当金	14,810,000
前払金	373,734	固定負債	90,442,069
前払費用	793,261	固定負債	90,442,069
短期貸付金	107,000	設備資金借入金	51,958,000
		退職共済引当金	38,484,069
固定資産	821,755,633	負債の部合計	261,097,945
基本財産	703,304,876	差引純資産	954,594,384
土地	84,101,200		
建物	619,203,676		
その他の固定資産	118,450,757		
建物	8,299,842		
構築物	19,159,660		
機械及び装置	35,957,512		
車両運搬具	6,094,401		
器具及び備品	8,598,580		
権利	801,038		
退職給与引当資産	38,484,069		
その他の積立資産	0		
長期前払費用	1,055,655		
資産の部合計	1,215,692,329		



平成29年度 事業報告

グループハウス ひるぜん

今年度は利用者一人ひとりと会話をする時間を大切にしてください。その中で、利用者の状況を把握して、個別の課題に引き合わせるように納得のいくまで話をしました。また、職員は利用者の日々の状況変化に対応できるようにと、午前と午後一日2回の引継ぎの時間を設定し、密に情報共有をしました。

高齢者には安全に生活ができるよう環境整備を行いながら、楽しみに繋がる活動を提案してきました。また、以前から取り組んできた映画鑑賞会では、1人で映画館まで出掛けられるようになった利用者もみられています。

平成28年11月から地域移行を目指して自立生活を始めた利用者は、開始当初1人での生活に不安も見られていましたが、生活が確立していき、地域サービスを組み合わせることで、スムーズに地域移行ができる様子がみられており、平成30年度は具体的に地域移行を進めていくことを考えています。



ワークプレイス まにわ



ワークプレイスまにわは、平成29年8月1日就労に特化した事業所として開所しました。「工賃向上」と「働くことへの喜びを感じられること」を目標に、ベットの製造を中心に作業に取り組んでいました。

作業に係る改善策については、作業意欲の向上に繋げられるようにと、職員と利用者が参加する全体ミーティングを週1回実施しています。最初は発言の無かった利用者も、現在では積極的に自分の意見や改善策を発表できるようになりました。

近年では障害特性の多様化が進んでおり、それに伴いニーズや困りことも増えています。そういった方には、個別に面談を行うことで一人ひとりの思いを汲み取り、支援方法を統一することで安定した作業が行えるよう取り組んでいます。

今後利用者への夢の実現に向けて、安心して利用できる福祉サービスの拠点となるよう取り組んでいきます。

デイセンター まにわ



近年は知的、精神、身体、発達など様々な状況の方が同じ空間で活動される中で、不満や困りごとの増加していました。また、生活介護事業と就労支援B型事業の職員が混在することで、職員の役割が曖昧になっているという実態がありました。

そのような状況を改善するために、平成29年8月1日より多機能型事業所であったデイセンターまにわの事業を分割し、生活介護の事業所として動き始めました。

利用定員が20名になったことで、すっきりとした空間の中で活動できるようにになり、落ち着いて作業に取り組む様子がみられています。一方で、なかなか作業に入れないという方も存在します。そのような方たちへの支援方法の検討や職員の役割に応じた専門性向上を今後継続していくことが必要だと感じています。

蒜山慶光園



日中活動班の再編成を行ったことで、蒜山慶光園生活介護事業においては重度化・高齢化が顕著になった一年でした。

ばよいか・・・と職員も利用者も悶々とした日々を過ごすことが多くなりました。そんな中「重い障害をもつ人にとっての労働・作業にはどんな意味があるのか」を改めて考える機会を持ち「働くこと」によって社会と繋がれる、やりがいを感じることの大切さを職員間で共有しました。そして新たな作業を導入するところからの再チャレンジを図っています。作業を通して何をすれば良いのかが明らかになると、落着いて作業に取り組む様子が見られています。

このことから、ただ活動するのではなく、活動を行うこの意味を考え、何をどのように取り組むのかを検討し、利用者と一緒に進めていくことを、私たちは学びました。これからもその視点を大切に取組んでいきたいと思っております。

グループハウス かわかみ

グループハウスかわかみは平成29年9月に2名定員を増やし、新規利用者を迎え入れました。その他にも居住事業へのニーズ、とりわけ多くの支援が必要な方の希望はよく聞かれ、今後の課題と考えています。

今年度も重度・高齢化の傾向は続き、平均障害支援区分4.8、平均年齢61歳となっております。リハビリサービスを活用して、身体状況の改善を図れた方もいる反面、機能低下による介助度の増加は顕著にみられています。

利用者が集団性を意識することを目的として、定期的に新規利用者の歓迎会や退院祝い、誕生会などを行いました。ご利用なら喜んでくれるか「新しい人」に色々伝えてあげようなど、利用者間で意見交換をしながら企画をすることで、楽しみや相手を考える機会になってきているようです。

平成30年度も、各関係機関と協力しながら、重度・高齢期にある方の生活を支援してまいります。指導員みづほ、お願いいたします。



デイセンター ひるぜん

平成29年度は利用者個々の状況に合った場所を提供するため、従来の事業所「ほろこり」を開所しました。目的やニーズを明確にしたことで、それぞれの場所が利用者にとって落ち着いて安定できる活動の場となりました。

「デイセンターひるぜん」は、年齢層も若くなり、新しい利用者も迎えました。これまでは集中して作業に取り組めなかった方も、働く空間と休憩空間を分かりやすくして、目標に対する評価を毎日行うことで仕事への意欲向上に繋がりました。

ほろこりでは、少人数になったことで、トラブルが減少し、作業に集中できるようになりました。また、利用者間で励まし合ったり、助け合ったりする場面も多くなっています。ほろこりに来てよかった「楽しい」と、利用者の笑顔が増えた事は大きな変化でした。

利用者の特性やニーズだけでなく、環境を整えること、人はこれまで変わることができないんだ」ということを感じています。今後こそ一人ひとりと向き合いながら働いて楽しく感じてもらえるように、専門性を高めていきます。



川上児童クラブ

川上児童クラブは、働きながら子育てをされている保護者の方と一緒に子どもたちの放課後や休校日の生活を応援しています。

「安心して楽しく過ごすことができ、一人ひとりが主体的に生活できる仲間」の気持ちを持って、信頼し合いたいという思いを育むことを目標に事業をしています。遊びを通して上級生が下級生を思いやる姿や、遊び方やルールを共有する姿など、学童ならではの異年齢児の集団生活の良さがあります。学習面のサポートを行うなどでは漢字が苦手だけと書けるようになったり「九九が間違えずに言えるようになった」など勉強の「楽しさ」や「できた」と感じられるようになってきています。

また、障害のある子どもたちの子育てを行っている家族の負担軽減のため、日中一時支援事業も行っており何名かの方に利用していただきました。



今後子どもたちや家庭の支援を行いながら、地域に根差した事業にしていきたいと思っております。

フークス ひるぜん

平成29年度は「働き、収入を得る場所」継続することで仕事をできる力を身につけていく場所を目標に掲げ引き続き就業事業に力を入れるとともに、支援面についても個々をしっかりとフォローアップすることで、多様化している障害特性に合わせた働き方声のかけ方、タイミングのとり方など、その方に合った支援を検討して、職員間で支援の統一を図り、心身の安定と働く意欲の向上に努めました。その結果、休みが当たった方も笑顔で通所されるようになってきています。



そのような中、10月には鳥取県倉吉市に新しく「フークスくらぶ」が開業され、フークスひるぜんからも13名の方が移行されました。一時的に利用者が減りさびしくなりましたが、年度当初の目標を振り返りながら、しっかりと回結して作業に取り組まれました。12月には新しい利用者も2名入られ、徐々ににぎわいも戻ってきています。

フークス くろこり

平成29年10月1日より、鳥取県倉吉市関金町において就労継続支援B型事業所「フークスくらぶ」の定員20名を開設することができました。

この日は、働くことをテーマとして、毎日たくさん作業に取り組んでいます。また「働く」というテーマに沿って、必要に応じて学習会を実施することで、仕事に対する意識を高められるように支援しています。

開所当初は利用者13名うち施設外就労5名でしたが、実習や見学、相談の対応をしていくことで徐々に利用契約者が増えてきました。利用されている方の多くは若い方で、悩みごとや困りごとの相談も増えていきます。そういった方々へは安心して仕事ができるように個別面談を行い、悩みごとや困りごと、本人の思いなどを聞けるような支援に努めました。

今後「働く」を通して、様々な経験や体験をすることで、利用者自身が成長を実感できる場所にしていきたいと思っております。

